

## 私の妹のうさぎ

一年 竹内心希

灰色でふわふわの毛、パタパタと動く床に着くほど長い耳に、黒く大きな目。3月から飼い始めたうさぎのクローバーだ。あまりの可愛さに、家族会議では多くの名前が候補に挙げられたが、最終的に「家族に幸せを運んでくれますように」という願いを込めてクローバーと名付けられた。私はクローバーから沢山の元気をもらい、同時に命の尊さと思いやりの心を学んだ。

うさぎは鳴かないが、その代わりに感情を動作で表現している。リラックスしてお腹を見せてバタツと横になったり、「撫でて」と私の手に頭を押し付けたりする動作はとても可愛い。また、顔や耳を前足で拭いたり、足元をぐるぐる走り周りたりすることもあり、私は毎日癒しをもらっている。その上、クローバーは生後約二カ月にして高いジャンプ力を持っており、しばしば脱走する。その度に私たち家族を笑顔にしてくれるのだ。

小さい頃から大好きな動物のぬいぐるみを多く持っているが、クローバーを飼い始めてすぐにその違いに気が付いた。それはクローバーを撫でたり遊んだりしている時に温もりを感じるということだ。私はクローバーに触れる度に、クローバーは小さくても間違いなく生きているのだと実感する。

しかし、生きているからこそ、気を付けなければならないことが数多くある。まず、うさぎは暑すぎても寒すぎても体調を崩してしまうため、部屋を家族と協力して最適温度に保っている。次に、うさぎは音に敏感だ。近くでくしゃみをするとかピクツとしてしまうのでいつも申し訳ない気持ちになる。天候が荒れ、雷が鳴っていた日も、クローバーは怖がってケージから出てこようとせず、足ダンをした。足ダンは警戒している時や仲間と危険を知らせる時に後ろ足をバンッと鳴らす行動だ。雷を止めることはできないので、その代わりにクローバーが安心できるようにと頭を撫でてあげた。さらに、うさぎは毛が生え変わる時期に抜けた毛を大量に呑み込み、病気になるってしまう可能性がある。そのため、クローバーと遊びながらも毛を抜くようにしている。このように、多くの注意点があるけれど、私は、クローバーが大好きだから大変だと思っただけではない。

うさぎは長ければ十年ほど生きるが、その時間は人間よりもずっと短く、その上私たち家族のお世話次第では寿命が短くなるかもしれない。私たち家族に命の温もりを教え、たくさん笑顔を与えてくれるクローバーが、幸せな一生を送れるように全力を尽くさなくてはならない。そのために、吠えて意思表示をすることのできないクローバーの気持ちや体の小さな変化に気付いてあげられるよう、近くで見守り続けることが私たち家族にできることだ。